

2025 年 12 月吉日

利用者施設向けアンケート集計結果と取組内容について

平素より当事業所をご利用いただき誠にありがとうございます。

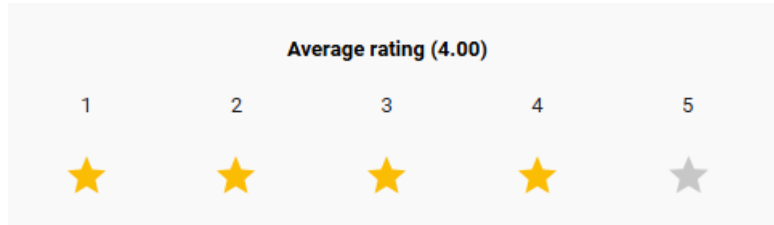
2025 保育所等訪問支援自己評価の集計結果を別添資料にてご報告させていただきます。

この結果を受けより良いサービスの提供に向け取り組んで参ります。

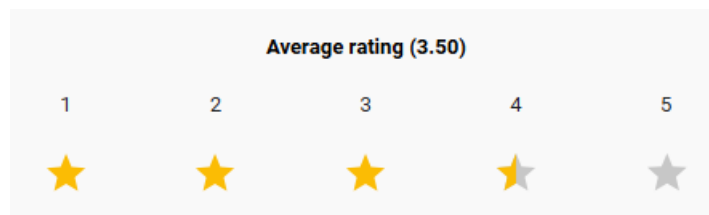
以上

2025 保育所等訪問支援評価アンケート

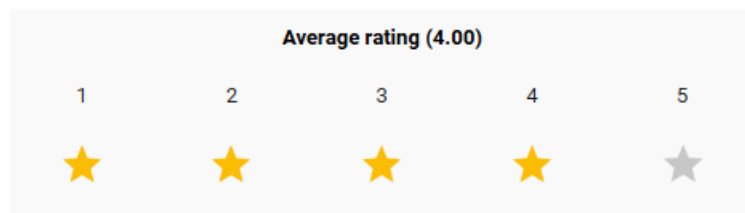
1. 訪問支援に使用する教具教材が整えられていますか。



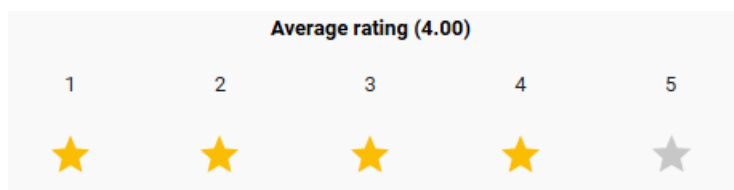
2. 利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。



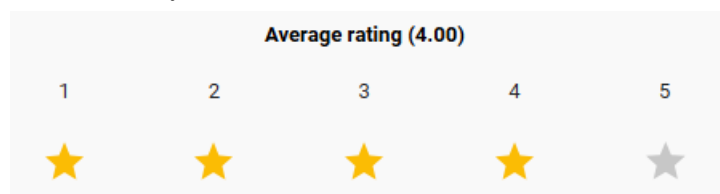
3. 業務改善をすすめるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に
広く職員が参画している。



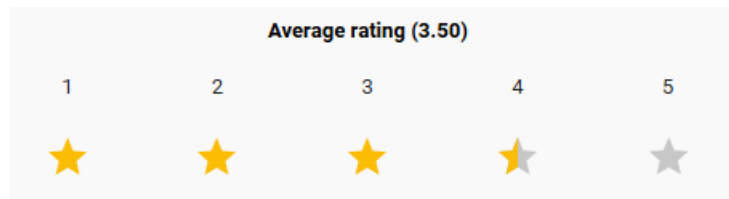
4. 保護者向け評価表により、保護者等の移行等を把握する機会を設
けており、その内容を業務改善につなげているか。



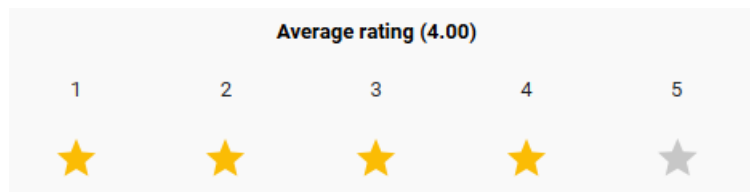
5. 職員の意見等を把握する機会をもうけており、その内容を業務改
善につなげているか。



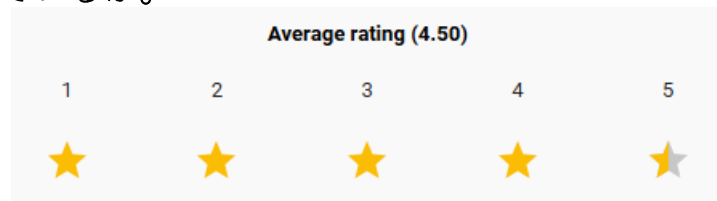
6. 第三者による外部評価をおこない、評価結果を業務改善につなげているか。



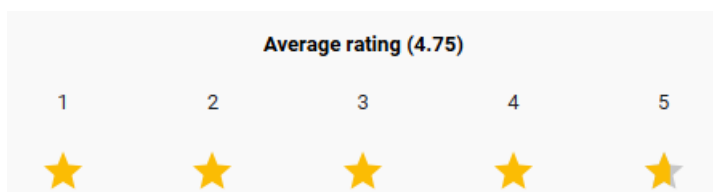
7. 職員の資質の向上をはかるために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。



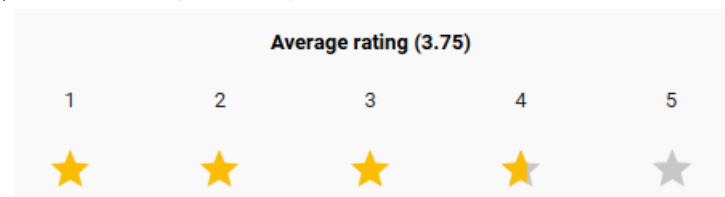
8. 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析したうえで、保育所等訪問支援計画を作成しているか。



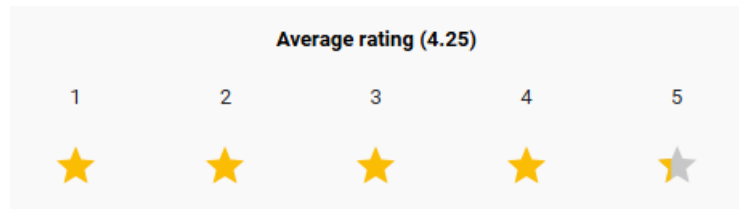
9. 保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。



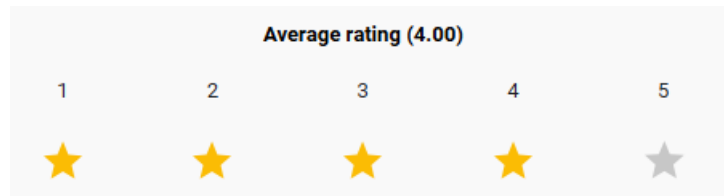
10. 保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。



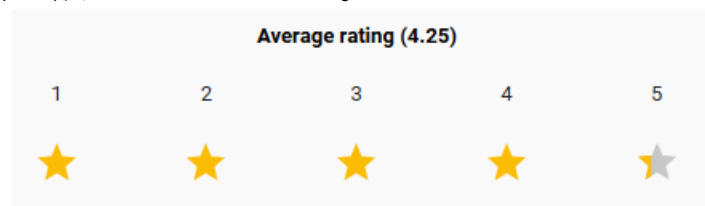
11. 保育所等訪問支援が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。



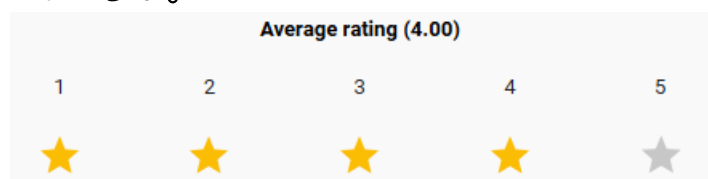
12. こどもの適切行動の状況を標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。



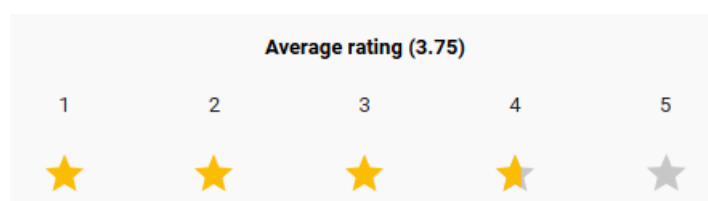
13. 保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の提供すべき具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。



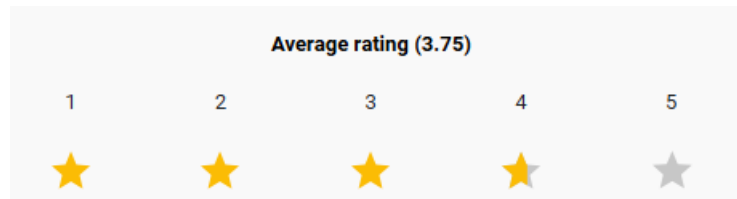
14. 保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画にそった支援がおこなわれているか。



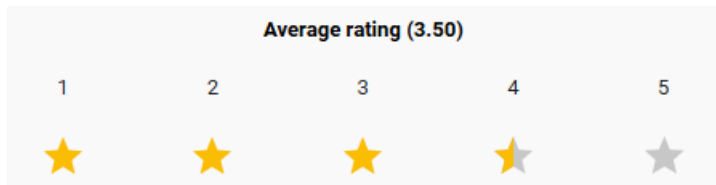
15. 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。



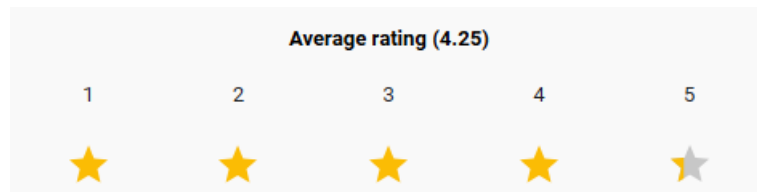
16. 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。



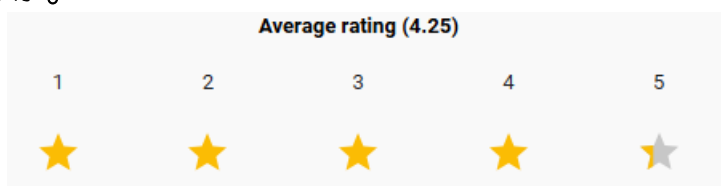
17. 保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。



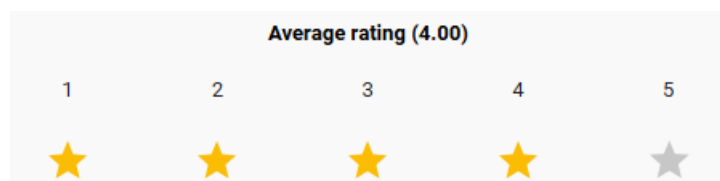
18. 毎回の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。



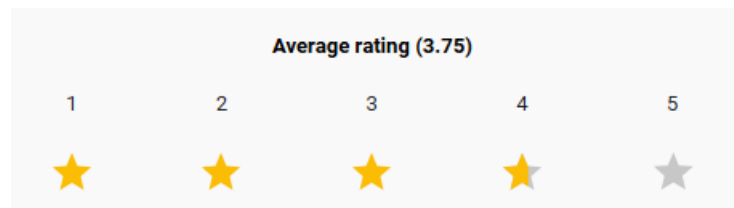
19. 定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。



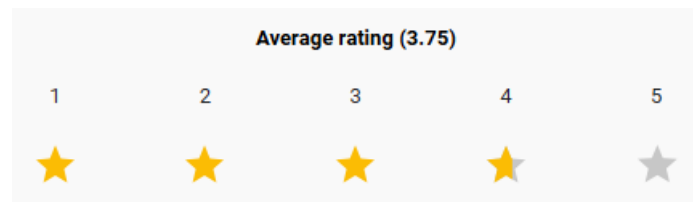
20. 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。



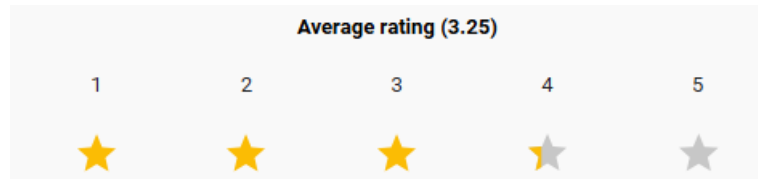
21. 地域の保健、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。



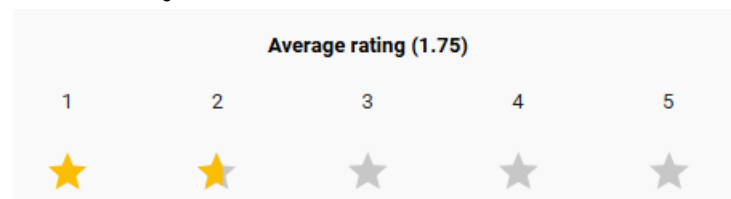
22. 就園・就学時の移行の際には、保育所等や学校との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。



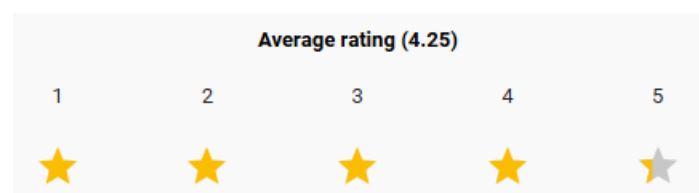
23. 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。



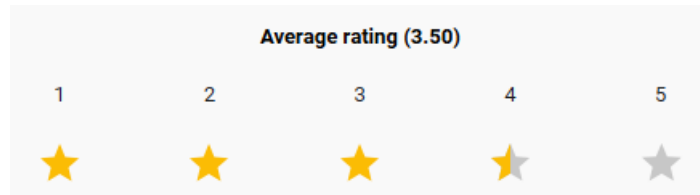
24. (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。



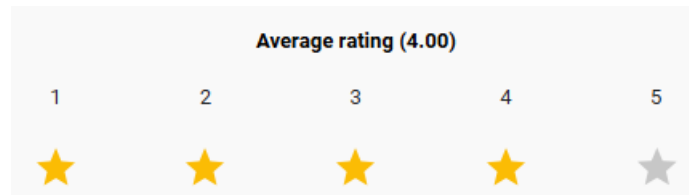
25. 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。



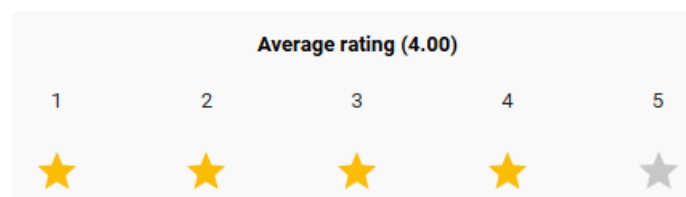
26. 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修 の機会や情報提供等を行っているか



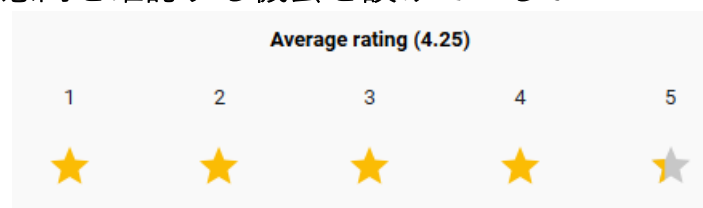
27. 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。



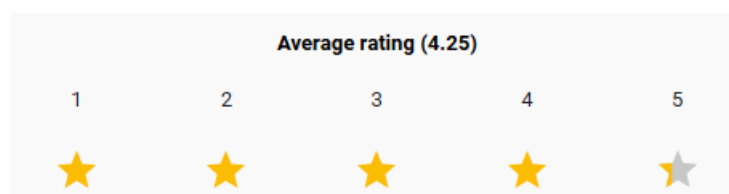
28. 訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切 に説明を行っているか。



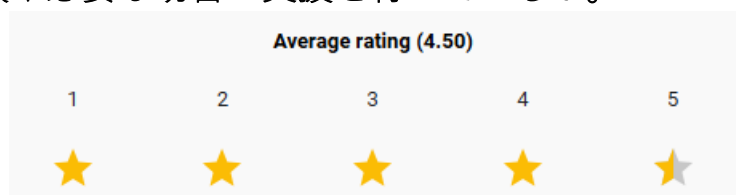
29. 保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思 の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか



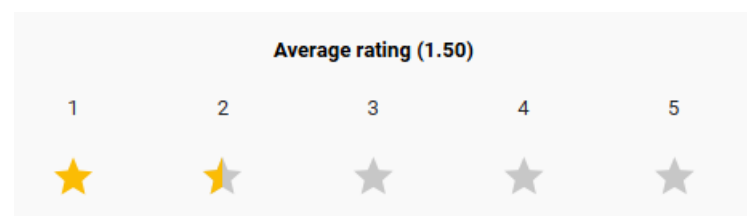
30. 「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。



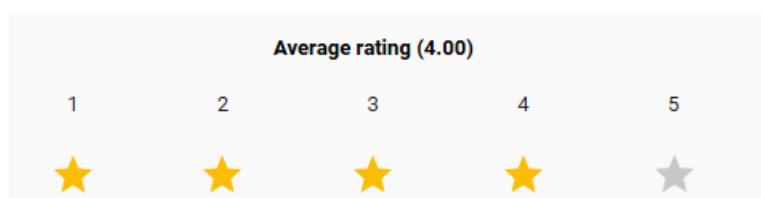
31. 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。



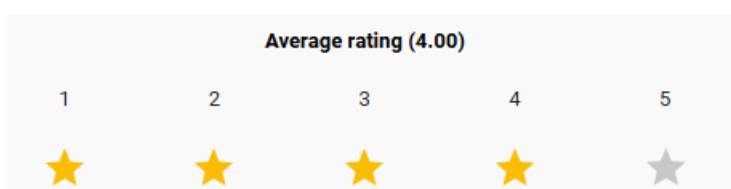
32. 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。



33. こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。



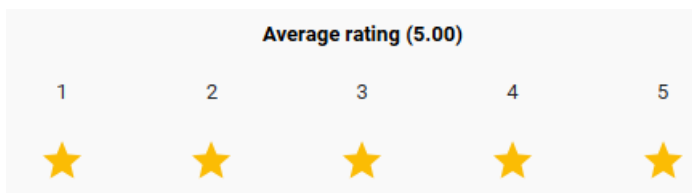
34. こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。



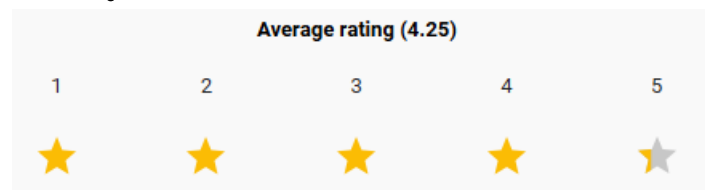
35. 定期的に通信等を発行することや、HP や SNS 等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して 発信しているか



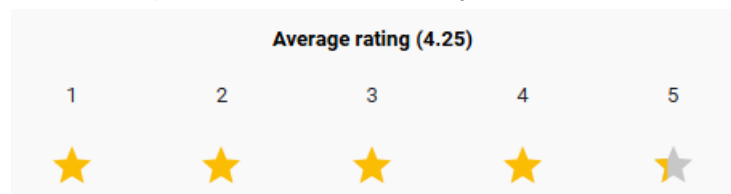
36. 個人情報の取扱いに十分留意しているか。



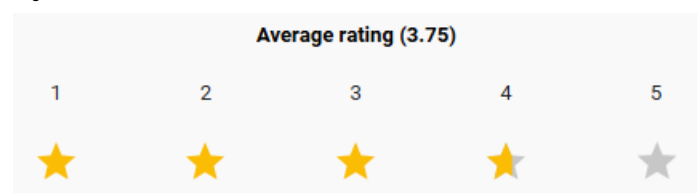
37. 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配 慮をしているか。



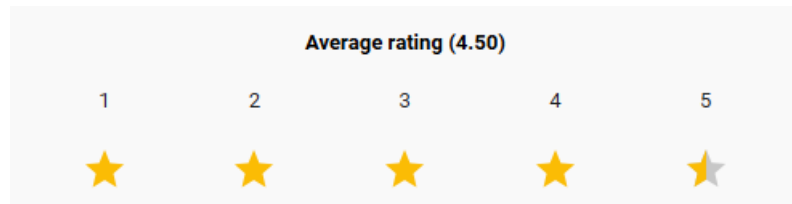
38. 訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか 。



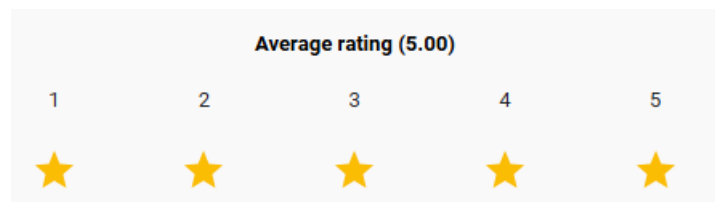
39 . 保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか 。



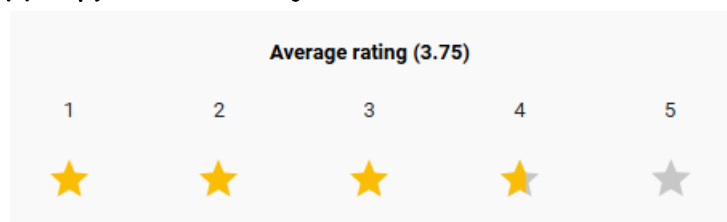
40. 保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。



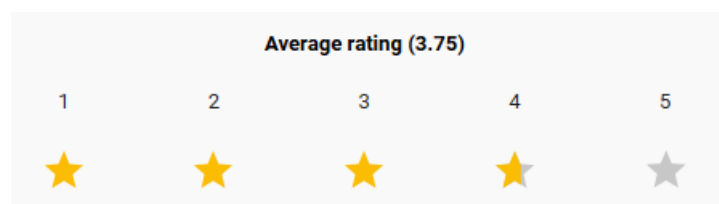
41. 個人情報の取扱いに十分留意しているか。



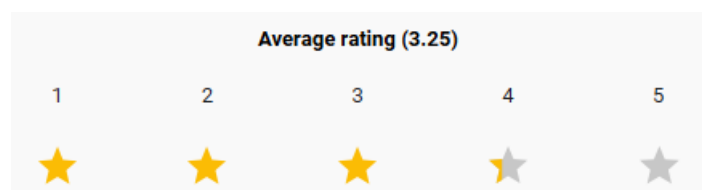
42. 訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。



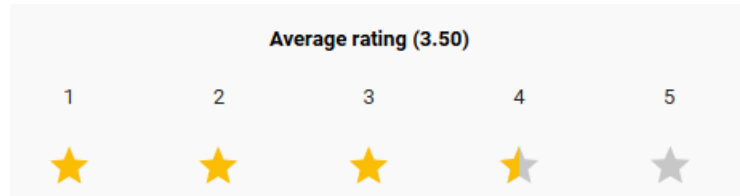
43. 訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。



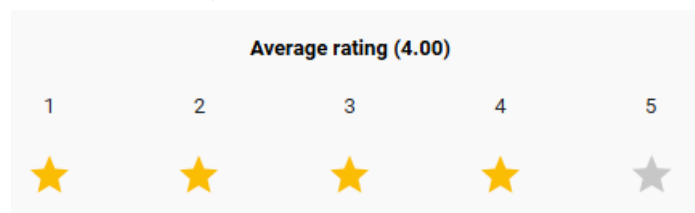
44. 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。



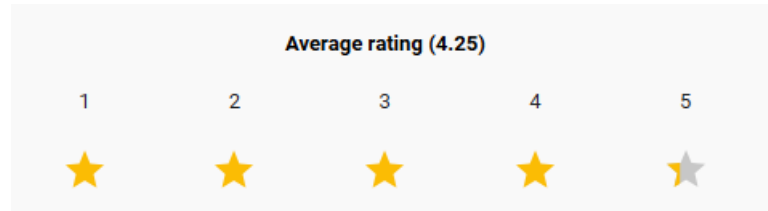
45. 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。



46. ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。



47. 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。



上記の自己評価を受けて強みである項目、今後推進すべき項目については以下の通りとなります。

■ 支援の質を高めるための工夫・強み

日々の支援において、以下の点に重点を置いて取り組んでいます。

● 多角的な視点によるチーム支援

└ 担当変更や複数担当制を活かし、対象児に対して多角的な視点を持って支援を行っています。

└ 担当者と児童発達支援管理責任者が密に連携し、個別支援計画を策定しています。

└ いつ担当が変更になっても質の高い支援を継続できるよう、定例会やチャットを通じたこまめな情報共有と意見交換を徹底しています。

●保護者・訪問先施設との丁寧な合意形成

- └保護者面談を通じて発達状況や将来への希望を丁寧に汲み取り、一人ひとりに寄り添った支援計画を作成しています。
- └個別支援計画の作成にあたっては、保護者の意向を反映しつつ、訪問先施設との意見のすり合わせと調整を行っています。
- └中立的な立場として、保護者と施設の双方にバランスよく情報が伝わるよう配慮しています。

●ICT や記録を活用したフィードバックの充実

- └支援記録アプリ(HUG)のコメント機能を活用し、保護者とリアルタイムで対象児の姿を共有しています。
- └対面での振り返り時間が確保しにくい小学校訪問時などは、メールでのフィードバックに切り替えて継続的な情報共有を図っています。
- └日々の記録作成を効率化するため、支援中のメモを徹底し、先生のお話も漏らさず記録することでフィードバックの精度を高めています。

●現場に即した柔軟な家族支援

- └外部研修機会が少ない中でも、各支援員の裁量により、日々の記録を通じた家庭での関わり方の提案やアドバイスや児発管を積極的に行っています。

■ 今後の課題と改善に向けた取り組み

●訪問先施設との連携・信頼関係の強化

- └園の実情を深く理解し、自分たちの支援方針を押し付けるのではなく、園の先生方と同じ思いで歩み寄れる関係性を築いていきます。
- └環境構成等の提案が難しい場合でも、まずは強固な信頼関係を構築し、発達支援への理解を深めていただけるよう粘り強く働きかけます。
- └訪問時間等の制約により事前打ち合わせが難しいケースにおいても、より密な連絡手段を検討し、情報の共有漏れを防ぎます。

●地域資源の活用と外部連携の推進

- └こども協議会や自立支援協議会など、地域のネットワークへの参加が不十分である点を課題とし、地域資源を生かした支援体制の検討を開始します。
- └ホームページや SNS 等を通じた情報発信を強化し、早期支援の必要性などを地域社会へ広く周知していきます。

●専門性向上のための環境整備

- └外部研修への参加について、次年度は特に児発管の外部研修を定期的実施することで、事業所内の質の向上をより目指してまいります。
- └保護者向けのペアレントトレーニングや各種研修会を組織的に実施できるよう、情報提供の機会を計画的に創出します。

●安全管理体制の再点検

└ 非常災害時等の安全計画を今一度全職員で確認し、訪問先施設との合同訓練やシミュレーションの機会を確保できるよう調整を進めます。

引き続き丁寧な支援に尽力してまいります。